

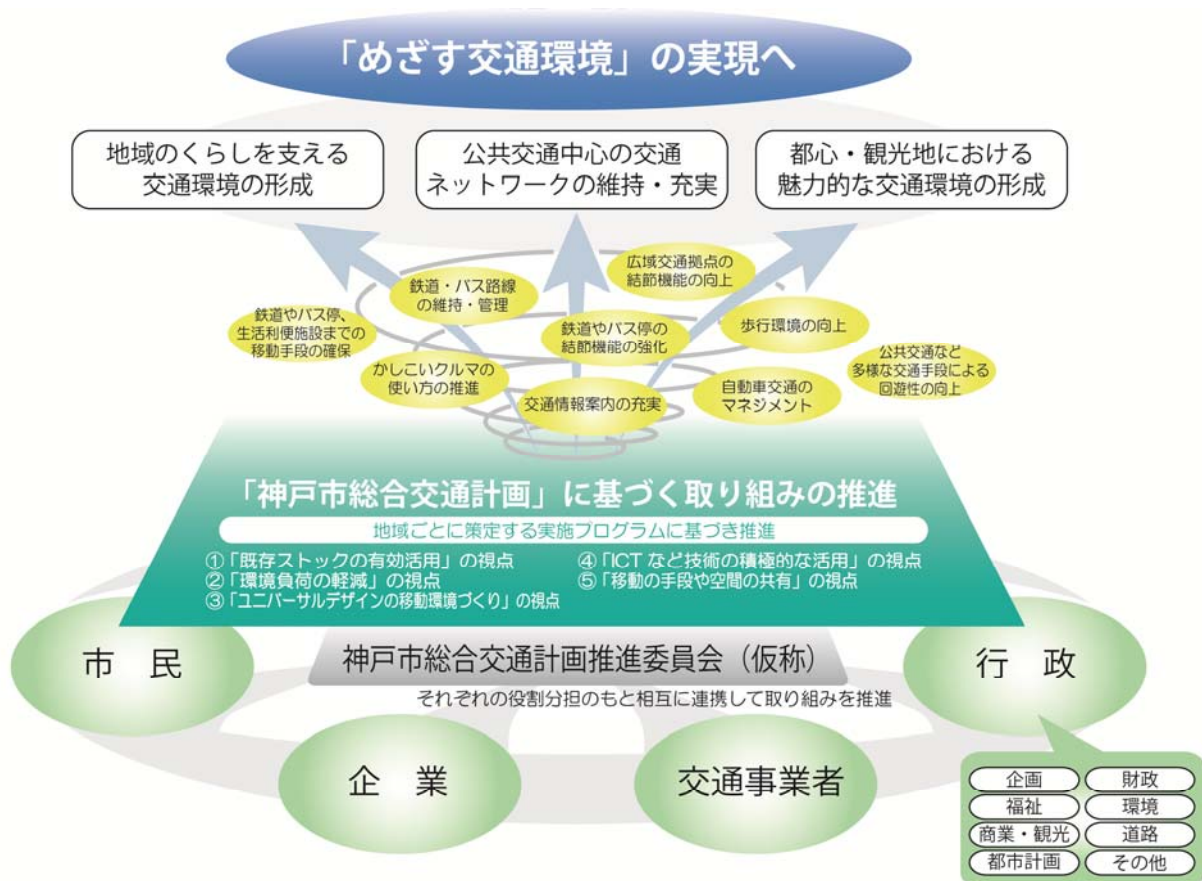
第4章 計画の実現に向けて

1—計画の実現に向けた「実施プログラム」の策定

計画の実現に向けて、具体的な取り組みを進めるための「実施プログラム」の策定を行います。今後、生活圏など人の行動範囲を基に、関係する市民代表や企業、交通事業者などを交えて検討を行い、地域ごとに随時「実施プログラム」を定めていきます。また、「実施プログラム」では、地域の細かい交通課題に対応するため、本計画に示す「主な取り組み」を戦略的に組み合わせ、段階的に推進するためのスケジュールを明らかにします。

2—進行管理および推進体制

本計画は、社会経済情勢の変化に柔軟に対応するため、概ね5年ごとに検証・評価を行った上で見直しを行い、PDCAサイクルによる進行管理を行います。また、地域ごとに策定した「実施プログラム」については、毎年、施策の進捗状況を確認し、PDCA サイクルによる進行管理を行い、見直し結果を、随時、取り組みに反映していきます。尚、本計画および「実施プログラム」の進行管理は、市民・企業・交通事業者、行政などで構成する「神戸市総合交通計画推進委員会（仮称）」などの意見を受けながら行います。



3—評価指標の設定

計画に基づく取り組みの効果を評価するための指標を、「交通施策の基本方針」ごとに例示し、今後、取り組みの効果をよりの確に評価できる指標を設定していくため、神戸市総合交通計画推進委員会（仮称）の意見も受けながら、引き続き評価指標の検討を行います。

交通施策の基本方針	指標（例）
【方針1】 公共交通中心の交通ネットワークの維持・充実	①代表交通手段に占める公共交通（鉄道・バス）分担率の変化（通勤やレジャーなど移動距離が長いことが想定される目的に係わるトリップを抽出）
【方針2】 地域のくらしを支える交通環境の形成	②鉄道駅圏域、バス停圏域内にくらす人口の神戸市全人口に占める割合の変化
【方針3】 都心・観光地における魅力的な交通環境の形成	③都心・ウォーターフロント来訪者の平均施設立ち寄り箇所数の変化
	④観光地（六甲・摩耶山）来訪者の平均施設立ち寄り箇所数の変化

4—連携して取り組むべき関連する分野の主な取り組み

第1章で「神戸づくりの指針」に示されている関連分野の主な取り組みを示しましたが、めざす交通環境の実現を図っていくためには、今後の社会情勢の変化を踏まえながら、交通への対策だけではなく、関連する分野の取り組みとも連携を図って行くことが必要であり、特に以下の取り組みと連携していくことが重要となります。

■都市空間づくり

- 都心域や連携・地域拠点への多様な都市機能の集積（生活利便施設、共同住宅など）

■住宅分野

- 世帯ニーズに応じた住替え支援
- 鉄道沿線のオールドニュータウンへの居住促進

■商業分野

- 市街地における徒歩圏内の生活利便施設の維持・確保

■福祉分野

- 高齢者や障害者の移動支援
- 健康づくりを推進するウォーキングイベントの開催

■観光・産業分野

- MICE、国際観光、広域連携などによる滞在型観光の推進
- 多彩な観光資源の活用・創出による神戸ならではの観光の推進
- 陸・海・空の交通網の利便性などを活用した企業誘致

■危機管理

- 災害時など特異的な状況下における交通対策